

絆 求 め て

4月10日発行

文責 幼児教育専門員 久保田学



「砂場」について考えてみましょう

どの園にも子どもの遊び場として「砂場」があるのではないのでしょうか。子ども達は年齢に関わらず砂場で遊ぶことが大好き。そして砂場では異年齢の子ども達と一緒に様々な活動を繰り広げています。

ところで、皆さんは子ども達の砂遊びの様子から、子ども達の成長をどのようにとらえていますか。「砂・砂・砂 SAND 『砂の遊びとアート』と保育」という著書をご存じでしょうか。著者は同志社女子大学現代社会学部教授の笠間浩幸さんです。この本には「砂場は誰もが楽しめる遊び場」と考え、その魅力と保育における有効性や、砂場での子どもの活動を系統的な視点と構造的な視点で観察し、子どもの育ちについて考える仕方などについて詳しく説明しています。一度お読みいただくと、砂場での子どもの活動を、発達過程を明確にして捉え直すことができると思います。

さて園にとっては非常にポピュラーな砂場ですが、砂場の環境について考えたことはあるでしょうか。この本には、「砂場の環境整備」についても大切な内容が書かれていましたので紹介します。

<砂場の砂質について>

砂は、その粒度が揃っていると子ども達の様々な遊びが可能になります。一般に砂は、その粒が0.075mm～2mmのものを言います。その大きさの粒が95%以上であると、砂場がカチカチになってしまったり、ザラザラ感の強いものになったりしません。砂場に砂を入れる際は、業者に「水洗いがされた砂」「砂の比率の高い砂」「2.5mm～3mmの篩を通した砂」を発注すると良いとのこと。

<砂場の環境整備について>

- ①砂場周辺の環境に変化を持たせる…砂場周辺に大小様々なテーブルや椅子を置いたり、置く場所を変えたり、時には全く何も置かなかつたりすると、遊びの内容や参加メンバーが変化します。また、準備する道具を変えることで、子ども達の砂場遊びのバリエーションが広がっていきます。
- ②砂場の砂は一定程度湿らせる…砂場の表面が乾いた状態で砂遊びすると、砂の粒子が鼻やのど、目を傷つけることとなります。安全面での配慮は当然ですが、湿っていることで、砂がまとまりやすくなり、色々なものを制作しやすくなります。
- ③日よけや砂場カバーを設置する…炎天下では砂場の表面の砂の温度は、軽く60℃を超えます。当然ながら炎天下では熱中症の危険性も非常に高くなります。日よけの設置は子ども達の安全確保のためには、必要条件と言えます。砂場カバーは犬猫などの動物による「糞害」への対応としても非常に有効です。かけるカバーがメッシュ状のものであれば、紫外線による殺菌効果も見込めます。

「砂場保育」の研修

さて、上で紹介した本には、砂場保育の実践が紹介されています。砂場を教材として扱う上では、保育者が砂場の魅力を理解し、その活用方法や砂を活用した作品の制作力を高めることが非常に重要であると思います。この本には「砂場保育研修プログラム」が載っていましたので、紹介します。

砂場保育に関する理論	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達に伴う砂遊びの展開をイメージする ○保育者の役割や課題について考える ○これまでの疑問や悩みを解決する <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂場の持つ社会的、歴史的意義を考える ・砂遊びを長期的な視点からとらえる ・砂遊びが引き出す子どもの力を考える ・砂場の環境整備や今後の課題を考える 	<p><理論編の感想></p> <p>砂場で道具をカチカチ鳴らす姿を見ると道具が傷み、つい止めてしまっていたが、研修を受けて発達のひとつだということが分かった。砂で遊ぶこと＝砂場遊びだと思っていたが、色々な遊び方があって良いのだなと思うことができた。</p>
------------	---	--

砂場ワークショップ	目的 ○砂遊びの面白さ、可能性を実感する ○砂場遊びをより楽しむことのできる基本的なスキルを体験する	＜砂場ワークショップの感想＞ 道具などの様々な使い方、アイデア等、たくさん勉強できました。自分の知らないこともたくさんあって、新たな発見もたくさんありました。子ども達ももっと砂場遊びに夢中になり、遊び込めるよう環境を整えたり、子どもたちと一緒に遊び、一人一人のアートを楽しんだりしたいと思います。
	内容 ・「砂」そのものを直接ふれて感じる ・普段の道具の新たな扱い方と砂遊びをより楽しくする道具類を知る ・砂場全体の環境準備と活用方法について体験的にイメージできるようにする	

＜研修を通じた保育者の変容モデル＞

対峙者		自分自身	子ども	保護者・園全体・地域社会
研修前	自己の記憶の呼び覚まし	砂遊び定番の思い出（すくう、入れる、型を抜く、積む、掘る）	砂場に子どもがいれば砂遊び	特別な意義説明をしない・できない
研修 ↓ スキルの上達・理解の深まり	興味関心	見よう見まね面白さを感じる	子どもの活動の意味を考慮しながら観察、対応	情報の伝達、意義を語ろうとする
	観察発見創造	他の保育者の動き、実践の比較、質問して疑問を解く	遊びへの見通しを持った計画と環境づくり	詳細に意義を説明、保護者参加のプログラムの提案も
	開発挑戦	自分なりのスキルや手順を何度も練習、工夫を試みる	長期の指導計画、実践的な環境設定、テーマの提案	砂場環境の更なる改善、地域全体の遊び・子育て環境への着目、改善の試み

*本には、いくつかの園での実践例が紹介されています。そちらを読むと非常に具体的に砂場保育をイメージできると思います。

参考 …砂遊びでの系統的な視点と構造的な視点について…

今回紹介した本には、「子どもの姿と遊びをとらえる2つの視点（系統的視点と構造的視点）について砂遊びに特化して詳しく説明されています。系統的な視点では、「感覚的な出会いとしての砂遊び」「砂で遊ばない砂遊び」「砂で遊ぶ砂遊び」「イメージと言葉が広がる砂遊び」「アートとしての砂遊び」の5つの段階で砂遊びを考えています。構造的な視点では、砂遊びを通して引き出される力を「感覚」「情緒」「身体運動」「物の操作」「言葉」「社会性」「想像と創造」「認知」「科学的態度」「自己」の10の分類で考えています。保育者が子どもの育ちを考える上で、非常に参考になる内容です。

最初にもふれましたが、砂場は殆どの園にある遊びのための環境です。しかし、考えてみると、砂遊びについて深く考えたことはなかったように思います。砂場で遊び方には子どもの発達段階により違いがあること、砂場で遊び込めるためには、砂質を考えたり、遊びのための道具を工夫したりなど、環境構成を工夫する必要があること、そして、保育者自身が砂で遊ぶ体験をし、経験値をあげる事が重要であると感じました。令和6年度の園内研修の予定は既に決まっているかもしれませんが、ぜひ、園庭や砂場をテーマにして研修をしてみてください。 (専門員)

*出典：「砂・砂・砂 SAND 『砂の遊びとアート』と保育」 笠間浩幸（著者）ホヅク（発行所）